



山内で一番の老木のしだれ桜

# 龍谷院たより

発行所 龍谷院  
茨城県東茨城郡  
城里町下阿野沢1509  
TEL 029-289-3108  
FAX 029-289-3025  
編集人 園部 義光

## 新年を迎えて

住職 園部 義光

お檀家の皆様に新年のお喜びを申し上げます。「一年の計は、元旦にあり」と言います。いろいろな夢と希望を持ちたいものです。また、其々のご家庭ではご家族そろって楽しい団らんのひとつを過ごされていることと存じます。お寺では修正会と申しまして正月の三が日間大般若経を転読し、お檀家のご多幸をご祈禱いたします。

さて今年は何年か、六番目の歳です。「巳」の本来の読みは「し」。原字は頭と体が出来かけた胎児を描いたもので、子宮が胎児をつつむさまを表す。「包」の中と同じ。十二支の「巳」は植物に種子が出来はじめる時期と考えられる。また、「止め」の意味の「巳」とし、草木の成

長が極限に達して次の生命が作られ始める時期と解釈しています。幸運を呼ぶ歳と言われます。

今年の龍谷院の行事としまして例年の行事に加え、今年七月ごろ「お盆万灯祭」を考えています。昔、地区の青年会で御田植祭をやっていた記憶があります。灯籠を石段に並べてご供養しようと考えています。また、暮れのころ、龍谷院には梵鐘がありません。残念ながら大みそかは寂しい限りです。そこで考えたのがイルミネーションです。お寺にふさわしいものを考えています。楽しみにして下さい。

昨年十二月十三日に、茨城県宗務所の主催の慰霊法要に参加し、東日本大震災の被災地宮城県亘理町から南三陸を訪ねて来ました。



大川小学校慰霊碑

第一日は宮城県の大川町の曹洞宗長徳寺様を訪ね、当時の被災状況の説明を受けました。津波の高さは約二メートルあったそうです。住職の生々しい体験に一同言葉を失いました。また、檀信徒の役員の皆様のお話も聞く事が出来ました。ある役員の方は今仮設住宅に住んでい

るのですが、津波に合う前は大きな家に住んでいたのですが、仮設住宅は狭く4・5帖二間で一年九か月の生活が続きました。スで毎日鼻血がでていたそうです。また寺の庫裏、客殿等も被害にあい、建物がありません。周りの住宅も津波でみんな流されてありません。いまは瓦礫がほとんど、片づけされていきました。

第二日は南三陸町へ行きました。報道で知られた石巻市立大川小学校の子どもたち七十数名がなくなつた場所です。小学校の建物だけが残っていました。そのほかの建物は何もありません。海を見渡せるのです。学校の建物にはクリスマスツリーが飾られていました。時折、子供さんたちの母親でしょうか、建物のなかを訪ね歩く姿を見たと、き自然と涙がながれて仕方ありませんでした。そこに居た参加者は言葉にならない悲しみに涙を流していました。

次に訪れましたところは昼食場所になつていたホテル観洋でした。そのホテルの女将さんのお話を聞きました。当時、ホテルが近くの住人の避難所になつた時の状況を詳しくお話しされました。400名以上の被災者が避難したとき電気も水も無いとき、どのように対応したか。そして、今、一年九か月が経つて、一番心配していることは人口の流出だそうです。昔のように人が戻つてこないですべてが始まらないという事でした。ホテルの女将さんは「復旧のためには全国からは非この三陸をはじめ被災地に来てください。そして、ガソリンだけでも良いから入れてください。それが復興の手助けです。」と言われていた言葉が心に残っています。

そのあと、テレビでも紹介されている南三陸町の中心の仮設商店街で復興の手助けのための買い物をしてきました。



茨城県宗務所慰霊法要団 於 大川小学校

皆様も機会がありましたら、気軽に被災地宮城県の三陸方面を訪ねて下さい。

復興の為に御金を使つて下さい。

お檀家の皆様のご多幸を切に願ひまして今年も宜しくお願ひ申し上げます。

# 新年のご挨拶



総代 加藤 盛一

新年あけましておめでとうございます。  
檀信徒の皆様には、輝かしい  
新春を迎えられましたこと、お  
慶び申し上げます。

日頃は、菩提寺の護持につ  
きまして、多大なご支援ご協力を  
賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は前年に発生した東日本  
大震災の復旧復興の最中、五月  
六日県西地方で竜巻、突風が吹  
き荒れ甚大な被害が発生いたし  
ました。

被害に遭遇されました方々に  
お見舞い申し上げます。

また、幾度となく発生した余  
震等に不安の日々を送った事で

もありました。新年こそ平安な  
年でありますように祈念いたし  
ます。

尚、菩提寺の環境整備のため、  
二度にわたり猛暑の中、世話人  
様、梅花講の皆様には作業奉仕を  
戴き、花の寺龍谷院境内に立派  
なアジサイが開花し多くの参拝  
者に観賞して頂きました。

今年も龍谷院のご繁栄を切に  
お祈りし菩提寺の護持に努めて  
まいりますので皆様の格別なる  
ご厚情ご協力を心からお願い申  
し上げます。

終わりに檀信徒ご一同様のご  
健康とご繁栄をご祈念申し上げ  
挨拶いたします。

## 寺院を訪ねて(五)

### 法雨山慈雲寺

東茨城郡茨城町下土師一四三  
四にある慈雲寺は、代々龍谷院  
住職を務めています。龍谷院四  
十二世真嶽宗道和尚が最初で次  
の住職が龍谷四十三世栄重宗天  
和尚より四十四世耀月義光と三  
代に渡って住職を務めています。

現在の住職は昭和六十一年より  
兼務住職をして、二十数年間こ  
のお寺の護持に努めてきました。  
その昔(正平年間)南朝の落  
ち武者が足利氏の追手を逃れて  
この地に来て、小山台に一堂宇  
を建立して一族の霊を弔ったと  
される。口碑によれば、朝日堂・  
夕日堂と伝えられている。

小山台からはしばしば当時の  
墓石、五輪塔及び宝篋院  
塔の遺物が出土されてい  
る。

のちに法雨山と号し、  
慈雲寺と命名され、寛文  
二年(一六六二)新畑検  
地の際、本多土佐守より  
境内二反歩の山林・竹林  
を寄進された。延享五年  
(一七四四)水戸市祇園  
寺の末寺となる。大正年  
間に曹洞宗寿昌派より曹  
洞宗に編入し現在に至る。



慈雲寺の穢跡金剛堂

## 龍谷院の行事

### 一、施餓鬼会 八月九日

大施餓鬼会が開催され、大勢の檀信徒の皆様が焼香をしていただきました。

### 二、開山忌 第四九七回忌

十一月一日

龍谷院を開かれた秀峰存岱大和尚の第四九七回忌の法要が行われた。布教師に友部町（笠間市）高寅寺住職北條和之師をお迎えしお話して頂きました。演題を「四食の教え」とし「段食・触食・意思食・識食」の四食について、次のように話されました。

食べ物私たちの命を支える大切なものです。私達の体は他の多くの命によって支えられているのです。しかし、私達を支えるのはただの食事だけではありません。お釈迦様は、四つの食べ物があると説いています。



開山忌法話

一つ目は段食と言って、普段私達が口にする食事の事です。食材はそのままでは頂く事は出来ません。段々に食材を切り、

或るは加工して、丸めるようにして、始めて口に入れ、食べる

事が出来るのです。私達は命を切刻み頂いているのです。

二つ目は触食と言って、人と人が触れ合う事も大切な食べ物のようなものである。とお釈迦様は説いているのです。現在

の私達はなるべく人と接しない様な生活をしていきますが、触れ合いがないと心の栄養がなくなってしまう。人との触れ合いがあなたのかい私達の栄養となるのです。人との触れ合いや、自然との触れ合いはとても大切なものです。三つ目が意思食、意思とは意志つまり、自分自身の生活の指針を持つという事です。人は何か目標をもつ

て生きています。志をたて、夢をもって生活している人は生き生きとしています。大きな目標ではなく、今日はお寺に行ってみよう、といった事でもその日一日が充実してきます。人生において何か目標を持つことは大切なことです。それも食べ物の様に私達には欠かせないものなのです。小さなことでも何か目標をもって生活したいものです。四つ目は識食、つまり目で見たり、耳で聞いたり、肌で感じる事、全てが食べ物で社会や学校で感じる全ての事、つまり環境も私達の心の栄養であり、大切な食事のようなものである。とお釈迦様は説いているのです。とらえかた一つで心の栄養になる自分の周りすべてを大切にしたいものです。つことは大切なことです。それも食べ物の様に私達には欠かせないものなのです。小さなことでも何か目標をもって生活したいものです。

三、第三十一回眞梅花奉詠大会  
十一月三十日

茨城県結城市「市民文化センター」にて第三十一回茨城県梅花奉詠大会が開催されました。龍谷院講と祇園寺講の合同登壇となりました。

大会に参加された小林恵子さんから感想文をいただきました。

第三十一回梅花流茨城県奉詠大会

小林 恵子

開会式、東日本大震災梅花講員物故者追悼法要、式典と厳かに進み、いよいよ



登壇奉詠です。昨年  
年は一番目で、夢  
中でお唱えした事  
を思い出します。  
今年最後から二  
番目、何とも長い  
一日でした。お昼  
もスッキリ食べら  
れず、ドキドキし  
ていました。私達  
の番です。緊張は  
しましたが無事終  
わりました。  
龍谷院は毎年祇  
園寺さんと一緒で  
す。私は五回目に  
なります。少し慣

れて来たのか、他のお寺さんの奉詠をじっくり聞く事が出来ました。その中で一番印象に残ったのは、五つのお寺さんの合同奉詠です。息の合った声、チン、リンリンと鈴鉦も心にスーッと入って来て、実に心地良い調べ

でした。「うまいね」「何回も合同で練習したんだね」と隣の加藤木さんと感動を分かち合いました。  
県大会に向けての練習、本番の緊張感、年に一度の行事を末永く続けたいです。

### 客殿の修理

平成二十三年の東日本大震災で、龍谷院の客殿の屋根が一部破壊し、昨年八月に修理を行いました。当初、被害がほとんどないと思われたのですが、天井の雨漏りを発見し、業者に依頼し見てもらったところ、屋根の一番高いところの瓦が少し変形していることが判明し、急ぎよ修理をすることにしましたところ、工事が大変混んでいて半年後の八月となりました。



ご本尊について

住職 園部 義光



各家庭には仏壇があるかと思ひます。その中心にお祀りするのがご本尊です。時々仏壇の中心にご本尊が無い仏壇を見受けます。ご本尊は宗派

によって違いがあります。確かにご先祖のお位牌も大切ですが、ご本尊をお祀り下さい。曹洞宗はお釈迦様がご本尊となります。

仏壇の右奥には永平寺ご開山道元禅師の像と、左奥には總持寺ご開山瑩山禅師の像を祀ります。

ご先祖の位牌で新しい(仏様)位牌は左手前、古い位牌は右手前に祀ります。

祠堂牌受付中

永代供養牌 十五万円

(但し、お骨の預かりは別となります。)



申込先 龍谷院 〇二九一二八九一三二〇八

申し込みいただいた祠堂牌は位牌堂に祠ります。

従来の祠堂牌は七万円

(三十年前が五万円)



第7回 龍谷院チャリティーゴルフ大会開催  
— 参加者募集中 —

開催日 平成25年5月20日(月)友引

場所 桂ヶ丘カントリークラブ

参加費 3,000円

※プレー費は各自負担  
※締切り5月10日(金) ※豪華賞品の用意あり  
※ゴルフ場が変更になる場合もありますのでご了承下さい。



平成25年度 節分会募集

平成25年2月3日(日)  
午後2時より

豆まき 1万円 星祭 3千円

申込は世話人さま、又は龍谷院まで

『編集後記』



大川小学校の名を耳にするたびに、何ともかわいそうで胸が痛くなります。茨城県内の曹洞宗寺院の法要団による供養、どんなにか慰めになったことと思ひます。

さて、歳が改まり、国政の担い手も改まりました。「よくなる」という期待を胸に、日々前進しようという意欲が湧いてきます。

方丈様がぜひにということ、編集委員の写真を載せていただきました。

編集委員

稲川 清

杉山三千雄